

# カトリック八尾教会ニュース 2022年9月



## 【今月の予定】 ミサの時間 Tháng chín

4日(日) 年間第23主日 L被造物を大切に作る世界祈願日	9:00	①グループ(A地区+ベトナム1) L(故ジャック バン. アッセ神父様2013. 9. 1) 追悼
11日(日) 年間第24主日	9:00 11:00	②グループ(B地区+ベトナム2) — 敬老の祝福 ③グループ(C地区+ベトナム3) — 八尾教会
17日(土) 初聖体勉強会	14:00	
18日(日) 年間第25主日 ベトナム語のミサ	11:00 15:00	①グループ(A地区+ベトナム1) —
23日(金) 病者・障がい者とともに歩むミサ	14:00	教区行事(人数制限、ライブ配信あり)
25日(日) 年間第26主日 L世界難民移住移動者の日	9:00 11:00	③グループ(C地区+ベトナム3) ②グループ(B地区+ベトナム2) L(故ペトロ 平山郡太郎神父様1984. 9. 26) 追悼

### ■「被造物を大切に作る世界祈願日」教皇メッセージ 2022年9月1日

親愛なる兄弟姉妹の皆さん  
 「被造物の声を聞け」——これが今年の「被造物の季節」(訳注:2007年に始まった、諸教会・超教派による環境問題啓発のための年間行事。日本のカトリック教会では「すべてのいのちを守るための月間」として、2020年から取り組んでいる)のテーマであり、呼びかけです。エキュメニカルなこの行事の開催期間は、9月1日の「被造物を大切に作る世界祈願日」から、10月4日のアッシジの聖フランシスコの記念日までです。すべてのキリスト者が一致して、わたしたちの共通の家のために祈り、そのケアをする特別な機会です。もともと、コンスタンティノープル全地総主教によって鼓舞されたこの季節は、わたしたちの「エコロジカルな回心」を深める機会となっています。・・・略  
 (※全文はホールの掲示及び、中央協議会H.Pにてご覧ください。)

### ■在留特別許可嘆願署名キャンペーン (中央協議会H.Pより)

—日本を故郷と思っている子どもたちとその家族を追い出さないでください  
 一人でも多くの人に在留特別許可を与えてください—  
 この度日本カトリック司教団は、日本で生まれ育った、在留資格がなく強制送還の危機にさらされている外国ルーツの子供たちのために、日本政府に対し在留特別許可を求めてオンライン署名活動を開始しました。このサイト内の下記のURLに特集ページを立ち上げています。

在留特別許可嘆願署名キャンペーン  
<https://www.cbj.catholic.jp/japan/statements/zairyukyoka/>



# 「御手の業」

チェ ジュヨンシンぶ  
崔 周永神父

にゆうわ せいかく けつ おも はげ いきどお つね ないめん はし まわ き  
柔和な性格では決してない、と思っている。激しい憤りが常に内面を走り回っている気がする。  
いいえ かん ぜ なぜ すば かみさま みこと ぼ ちぢい いか かみさま  
いいえ、感じる。何故、こんなに素晴らしい神様の御言葉が縮こまっているのかという怒り、神様  
へもっと近づいていくはずの人々が、気力を失い、力をなくしている様子を見ると、神様の方に  
どンドン引っ張ってあげたいと本能的に反応してしまう。いつの間にか、自分が思ってみても、神様  
のことに物凄く熱くなっている。不思議な、実に、不思議なことだ。

ねん まえ へいえき つと とき いのち あぶ できごと おも だ にとうへい じき  
30年も前に、兵役を務めていた時に、命が危なかった出来事を思い出す。二等兵だった時期、  
1990年の秋に、自隊は北朝鮮の軍隊と目と鼻の距離の所に配置される前に訓練をしていた。即刻  
措置とって、敵に向かって小銃で弾を浴びせ、クレイモアという地雷を爆発させ、手榴弾を  
投げ込む一連の戦闘行為を叩き込まれていたのだ。その日は手榴弾投げの訓練で、10名くらいの  
列を組んで順番に手榴弾を目の下の谷に投げていた。爆発ではなく、空気を引き裂くような  
破裂音が凄かった。あれで、人間の体は引き裂かれるのだ、と感じた、跡形も、ほぼなく。悲惨  
な、無残なことだ。前列の兵士達が身を構えて手榴弾を次々と投げていく。しかし、そのうちの  
一人の二等兵の動きがどうやら胡散臭い。勇敢に思いっきり投げずに躊躇っているのではないか。  
教官に促されてようやく投げ出したものの、あの二等兵の手の中にあつた手榴弾は、私たちの  
頭の上に止まったように見えた瞬間、ある音が聞こえてきた。そうだった。撃発音だったのだ。  
つまり、あの手榴弾は不発弾で、幸いに、爆発せず、その日、私たちは命が助かったのだ。確率  
がどのくらいだろう。中隊全体の訓練なので、少なくとも、160発くらいの手榴弾の内、あのぼ  
うっとしていた二等兵の手に不発弾が回っていく確率というのが。もし、あの手榴弾が普通に爆発  
していたら、私の人生はあの時終わったはずだ。21歳の時のことだ。兵士の頃、この事件以外に  
も命が危なかったことは、その後も何回かあつた。しかし、生き残つたのだ。無事に除隊し、今  
まで生きてるのだ。

わか とき いま ちが かたち むちつじよ いか ほんろう とき あした  
若かつた時、今とは違う形の、無秩序な怒りに翻弄されていた時のことだ。もう明日はないか  
もという勢いで、誰でもいいから掛かってこいと、殺してやるからというアホだった時期。自分の  
ほんとうの価値がまだ分かっていなかった時、神様とまだ出会う前の時だった。しかし、神様は既に、  
その時も、御手を回して守って下さっていた。それが、洗礼を受けてから分かつたのだ。御手の業  
を、ほぼ常に実感しながら生きてきた。ガンに苛まされていた病床で、母国を離れる飛行機の中  
で、日本語の勉強の時も、ある意味で厳しかった神学校で、ローマ留学の時もだ。守られている  
ことが、到底否定出来ないほど、数多くの助けを頂いたので。だから、知らぬ間に、私は熱い  
人間になっているのだ、神様へ！神様のために生きていくことへ！

かみさま ゆだ すば くち ゆだ ひと けつ わ  
神様に委ねること、その素晴らしいさをよく口にする。委ねたこともない人は決して分らないそ  
のお恵み！神様の宝を納めている倉にカギは掛かっている。人々は思う存分その倉から宝を取  
り出せばいい。しかし、人々は入ろうとしない。残念な、大変、残念なことだ。

じゃ、今日も、御手に委ねた一日が始まるぞ。